



TITLE:

表紙・目次・修士論文要旨・研究室だより・奥付

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙・目次・修士論文要旨・研究室だより・奥付. 地域と環境 2014, 13

ISSUE DATE:

2014-12-26

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/197671>

RIGHT:

地域と環境

No.13 2014.12

Region and Environment

小島 泰雄：前郭灌区の水田開発	1
春日あゆか：環境問題と循環型社会 —19世紀初頭ロンドンのレンガ製造業—	15
布施 綾子：人と野生動物の関係の歴史をたどる —東洋の古典に記述された人間と 野生動物との親和性に主眼を置いて—	31
上野 莉紗：政府による道州制をめぐる提言の今日的特徴	49
潘 藝心：行政区画制度にみる寧鎮揚地域における 都市のヒエラルキー	59
権藤 拓樹：フライブルクにおける都市環境の歴史的変遷 —都市中心を一視点として—	71
早川 尚志：洛陽城との比較に見る恭仁京	91
小方 登：中央アジアにおけるテパの分布と形態 —2013年度ウズベキスタン調査から—	109
修士論文要旨	121
研究室だより	125

京都大学大学院人間・環境学研究科
「地域と環境」研究会

Region and Environment

No. 13 December 2014

Reclaiming paddy fields in Qianguo irrigation area Yasuo KOJIMA	1
Environmental problems and recycling-oriented society: Brick-making in early-nineteenth century London Ayuka KASUGA	15
History of relationship between humans and wild animals: Focused on the affinity of humans for wild animals in eastern classical writings Ayako FUSE	31
The present characteristics of the proposals on the issue of prefectural-system reform by the central government Risa UENO	49
Hierarchy of cities in Ning-Zhen-Yang Region from the perspective of administrative division system Yixin PAN	59
The historical change of the urban environment of Freiburg im Breisgau from the perspective of “urban hub” Hiroki GONDO	71
Kunikyō, in comparison with Luoyang Hisashi HAYAKAWA	91
Study of distribution and form of the settlement remains in Central Asia: Results of the research trip in Uzbekistan in 2013 Noboru OGATA	109
<hr/>	
Summaries of Master’s Theses	121
News	125

修士論文要旨

2012 年度

A Cartographic Study of European-made modern maps of Japan

: Detailed analysis of Knipping's map

(西欧製近代日本図の地図学史研究—クニッピン
図の詳細検討に焦点を置いて—)

國 友 勇 牙

本論は、地図の歴史上重要な存在として位置づけられるものの、これまで十分に研究されることのなかった「西欧製近代日本図」に注目し、その実態を明らかにすることを目的とする。そのために、第Ⅰ章で既存の研究を示しながら本研究の意義と目的、及び研究方法を述べたのち、大きく次の3つの章立てで議論を進める。

まず第Ⅱ章では、「西欧製近代日本図」が意味するものを明確にするため、地図学史における「近代」の定義を改めて問い直す。そこで従来の研究を参照した上で、「地図作製」、「地図表現」、「地図利用」という地図を取り巻く3つの観点を独自に設定し、この観点から西欧の地図学史を概観する。その結果、19世紀の西欧製日本図を西欧製近代日本図として捉えることが妥当であることを示す。

次に第Ⅲ章では、マクロな視点から量的分析によって西欧製近代日本図の実態を捉える。そのために世界の主要な地図所蔵館にある西欧製近代日本図をリスト化した上で、各地図の間の関連性と全般的な動向を検証する。その結果、西欧製近代日本図は約200種類あり、それらは5つにグループ分けすることが可能であることを示す。またそれぞれが共存しながら、全体として正確性が増していった実態を述べる。

最後に第Ⅳ章では、ミクロな視点から質的分析によって西欧製近代日本図の実態を捉える。そのために西欧製近代日本図の中でも特に注目に値する「クニッピン図」を取り上げ、一枚の地図の

詳細な検討から帰納的に西欧製近代日本図全体の特質を考察する。その結果、例えば西欧製近代日本図が日本の急激な発展と旧来からの慣性の両面を反映していることや、正確な読みで地名を記すことが困難であった実態等を示す。

以上のように、複合的な視点、手法、論理から西欧製近代日本図の実態を理論的かつ実証的に論じ、その独自性と重要性の一端を述べる。

近世後期京都における商家奉公人の供給地域

—平野屋遠藤家を事例として—

長 島 雄 毅

本論文は、近世における労働移動から社会・地域を把握するべく、京都における商家奉公人の供給地域の傾向を地理学的視点から明らかにし、さらに都市商家の経営や都市社会の一端を明らかにすることを目的とする。対象とする商家は、近世後期の京都において平野屋と号し布問屋および呉服商いを家業とした遠藤家である。

研究方法としては、第1に奉公人請状から奉公人の出身地を明らかにして、出自や奉公先での職務との関連性および身元保証人である請人との関係性を検討した。第2に別家の奉公人再生産構造としての機能に着目し、別家の居住地域を奉公人供給地域と捉えて分布を検討した。また、具体的な奉公人1名に着目し、出生・奉公入り・別家というライフコースを辿ることによって奉公人供給の事例を提示した。

分析の結果、奉公人は主家において担うべき役割に応じて供給形態が選択される傾向があることが明らかになった。具体的には、手代は京都出身の場合には下京の比較的小経営の町人の子が多く、農村地域出身の場合は地域の有力者の子が多かった。下人・下女は近江や若狭などの周辺地

域出身者が比較的多数を占めた。特に下人は百姓出身者が多く、人宿や口入れを介した雇用がなされた。京都市中における別家は、主家の所有する長屋に居住する者、他の商家の借家に居住する者、個人で家屋敷を所有する者がみられたが、共通して下京の遠藤家の近隣に分布していた。別家の居住地は主家によって近隣に規定され、その居住地から別家の子弟が主家へ奉公人として供給された。一方、これら遠藤家の奉公人供給形態からみて、京都の下京において地縁的・血縁的・職縁的関係が密に築かれている可能性も示された。

石門心学の歴史地理学的研究

—京都近代公教育への底流—

中 本 朝 海

本稿の研究目的は、18世紀後半から19世紀の京都を対象とし、近世の庶民教育が近代の公教育に与えた影響について、石門心学を通して明らかにすることである。具体的には、心学講舎の普及や門人による教化活動および救済活動が、近代公教育の先駆である京都の番組小学校へ継承されたものを明らかにするため、空間的広がり、教育思想、布教・救民活動の三つの観点から検証した。その結果、以下ことが明らかになった。

石門心学は、18世紀の京都で石田梅岩により創始され、平易な言葉で実践道徳を説いた思想である。それは手島堵庵によって全国へ普及し、児童教化も行われた。学舎に着目すると、石門心学の心学講舎である明倫舎と時習舎の2舎が番組小学校の校舎へと継承されている。また、石門心学で用いられた文書が番組小学校の教科書と共通することや、番組小学校における心学道話の実施などから、石門心学の教授内容は番組小学校へと継承されたと言える。さらに石門心学の布教・救民活動は、すべての人々を対象として近世の公的機関である藩勢力にまで普及し、飢饉の際には市中全域を対象とする粥施行を行った。このような公と

の関係の深さから、石門心学に公的性質を見出すことができ、これは近代以降の公教育という性質と共通する。

このことから、石門心学の空間的広がりや心学思想、布教・救民活動における公的性質のいずれもが番組小学校へと継承されており、京都において石門心学という近世庶民教育は、番組小学校を先駆とする近代公教育の底流となったと言える。明治以降の近代公教育の源流を問えば、全国で最初に設立した初等教育機関である京都の番組小学校が浮かび上がる。その立役者は、近世からその地域で生活する町人であり、近世庶民教育の牽引者であった。近世庶民教育との連関については、寺子屋だけでなく京都の石門心学のように、その地域の拠点となった庶民教育機関についても目を向けるべきである。

2013年度

ホルチン沙地の土地利用と共同体の動きに関する人文地理学的研究

—中国内モンゴルホルチン沙地における

半農半牧村落の事例より—

趙 富 蘭

1980年代以降、集団経済が解放された後、調査地のホルチン沙地では、生産責任制、土地請負制といった土地利用に関する制度が実施されてきた。本論文では、ホルチン沙地のある半農半牧村の土地利用に伴う生産環境の変化及び生業変化を時系列的に追いながら、土地の配分・利用の変化が家族関係、親族間ネットワークを含めた村落共同体の動きに及ぼす影響を与えているのかについて明らかにする。

ホルチン沙地は、北緯42°41′～45°15′、東経118°35′～123°30′に位置し、面積が4.23万Km²、内モンゴル自治区の北部を走る大興安嶺山脈・努魯兒虎山系・松嫩平原との間で、三角形を呈して

広がっている。年間平均降水量は250～500mmで、半湿潤と半乾燥過渡性気候である。

歴史的に、ホルチン地方は、チンギス・ハンの弟のハプト・ハサルが率いる戦闘部隊が幾度も南下し、現在の地に定住したところから由来する。19世紀の末ころから20世紀の初頭にかけて、官主導の蒙地開墾によって、牧地の狭隘化現象が生じた。モンゴル遊牧民は優良な牧草地から撤退し、より乾燥したステップ地帯と山岳地帯に移住した。そして、牧畜生活の破産と半農半牧生活への転換を果たした。

調査地のMN村では、1980年代から集団経済の解体を機に、環境破壊およびその防止策を着眼に次々と打ち出されていく政策のもとで、土地利用をめぐる「環境破壊と環境保護」といった二項対立的な枠組みではとらえきれない様々な動きがみられた。そのなかでも本論文では主に土地利用に伴う生業転換、共同体の動きに注目する。また、生業転換が集約農牧業へとつながっていく様子を描くと同時に、親族ネットワークの強化を含めた村落共同体の新たな動きを考察し、ホルチン沙地の土地利用、共同体の在り方の今後の展開の一つの可能性を提示する。

研究室だより

(2013 年 1 月～2014 年 12 月)

2013 年

・1 月 5 日

小島は、長崎県立大学シーボルト校で開催された科学研究費（「近現代中国農村における環境ガバナンスと伝統社会に関する史的研究」代表：内山雅生宇都宮大学教授，課題番号 22251007）の研究集会で、「道備村の大規模性をめぐって」と題した報告を行った。

・1 月 20 日

小島が共著者のひとりである高校地理教科書『高等学校新地理 A』（帝国書院）が発行された。

・1 月 31 日

『歴史地理学』55 巻 1 号に次の論文が掲載された。安藤哲郎「京都の歴史遺産と旅—授業実践を踏まえた歴史地理学からの提案—」（17～28 頁）。

・2 月 1 日

安藤哲郎助教が着任した。

・2 月 4・26 日・3 月 12 日

橘セツ神戸山手大学准教授を招いて、「地理学の国際学会における英語発表をめぐって」と題する連続講演を，研究室が主催して開催した。

・3 月 15～21 日

小島は，中国成都市で近代都市図と都市構造にかかわるフィールド調査を行った。

・3 月 20 日

小島が共著者のひとりである『高等学校新地理 A 教授資料』（帝国書院）が発行された。

・3 月 20 日

小島が執筆した「トウモロコシとカン」（リレー連載：環境を考える，22-25 頁）を掲載した『人環フォーラム』第 32 号が発行された。

・3 月 25 日

國友勇牙，長島雄毅，中本朝海が京都大学修

士（人間・環境学）を授与された（各論文の要旨は本誌に掲載）。中本朝海は兵庫県の高校教員として採用され，兵庫県立松陽高等学校に赴任した。また，村山豪，柴田泰秀，石崎麻依，小林由果，寺岡郁夫が京都大学学士（総合人間学）を授与された。

・3 月 29 日

小島と石田曜は，日本地理学会 2013 年春季学術大会（於：立正大学熊谷キャンパス）で，それぞれ「大豆コウリヤンからトウモロコシへ—中国長春フィールド調査報告（1）」，「南湖公園における「休閒」活動とその特性—中国長春フィールド調査（7）」と題した発表を行った。

・4 月 7 日

平成 23 年度の大学院入学式が開催された。本年度は，修士課程に寺岡郁夫，馬貝妮（指導教員小島）が入学した。また，地球環境学舎人間環境共生論分野に，夏目宗幸，森下翔太（指導教員小方）が入学した。博士後期課程に長島雄毅（指導教員小方）が進学した。

・5 月 17 日～7 月 15 日

小島は，中国山西大学の馬維強副教授（中国社会史研究センター）と鄧宏琴副教授（政治与公共管理学院）を教育研究機関研究員（私学研修員）として受け入れた。

・5 月 30 日

安藤の「日本古代・中世の地域構造と空間認識に関する研究」と題する研究が，平成 25 年度京都大学若手研究者スタートアップ研究費に採択された（助成額 30 万円，平成 25 年 4 月 1 日～平成 25 年 9 月 30 日）。

・5 月

『地図情報』125 に，安藤の「京都への修学旅行と効果的な地図の作成・活用—事前の学習と

も合わせて一」(24-27 頁)と金坂名誉教授と卒業生の國友勇牙氏の共著「都としての京都の地図の歴史と近代」(4-11 頁)が掲載された。

・ 6 月 29 日

岐阜大学で開催された経済地理学会中部支部 6 月例会において、次の発表が行われた。上野莉紗「国・県・市町村の道州制をめぐる議論についての検討—中央と九州地方を事例として—」。

・ 7 月

2013 年度第 1 回巡検が、「復活の京都」と題して行われ、京都市平安京創生館、清明神社、京都市動物園、琵琶湖疏水記念館などを巡った(担当:安藤哲郎)。

・ 7 月 10 日

『地図中心』490 に、『こちら研究室 19』というコーナーで、地域空間論分野研究室を紹介する記事が掲載された(38-39 頁)。本文は博士課程院生の上野莉紗・石田曜・長島雄毅が執筆した。安藤の「地図・古典を片手に巡る「古都京都の文化財」」(19-25 頁)と題する小文も掲載された。

・ 7 月 24 日

安藤は、京都市立堀川高等学校の 1 年生(21 人)の「探究基礎」授業に関連して研究室訪問を受け入れた。

・ 8 月 1 日

九州大学で開催された“The 8th Japan-Korea-China Joint conference on geography”において以下の発表が行われた。

Risa UENO “A review of the role of administrative region: Focus on Mishima village - a small municipality in Kagoshima prefecture”。

・ 8 月 4 ~ 9 日

国立京都国際会館において 2013 年京都国際地理学会議(IGU 2013 Kyoto Regional Conference)が開催された。小方は組織委員会副事務局長を、小島は募金委員会副委員長を勤めた。

この会議では、以下の発表が行われた。

Noboru OGATA “A Study of Settlement Remains near the Qiemo Oasis in Northwestern China using Satellite Imagery and DEM”

Yasuo KOJIMA “Continuities and discontinuities of spatial organizations in rural China”

Risa UENO “The history of the discussion on issue of changing the administrative regional system in Japan”

Yo ISHIDA “Characteristics of “Xiuxian” Activities in China : The case study of Nanhu Park”

・ 8 月 8 日

小島は、調査報告書『中国東北における地域構造変化の地理学的研究—長春調査報告—』(地域空間論分野)を編集発行した。この中で、小島は「長春農村における作目転換と自給性」(48-55 頁)を、石田曜は「長春市南湖公園におけるレジャー空間の特性」(16-24 頁)を執筆した。

・ 8 月 10 日

高砂地区コミュニティセンターで開催された兵庫地理学協会夏季研究大会において、中本朝海(本年 3 月修士課程修了)が修士論文の内容に関する次の発表を行った。中本朝海「石門心学の歴史地理学的研究—京都近代公教育への底流」

・ 8 月 15 ~ 28 日

小島と石田曜は、科学研究費(「中国東北における地域構造の変化に関する地理学的調査研究」(代表:小島, 課題番号:24401035))によるフィールド調査に参加し、中国松原市において、それぞれ農村調査と都市調査に従事した。

・ 8 月 25 日

安藤は、佐賀大学で行われた日本地理教育学会第 63 回大会において、「地理学習における「連想」の重要性」と題する発表を行った。

・ 9 月 1 日 ~ 8 日

小方と小島は、科学研究費助成事業「前近代中国における交通路と関津の環境史的研究」

(基盤研究 (B) : 代表者・福原啓郎京都外国語大学教授) の一環として中国に赴き、潼関などの調査を行った。

・ 9 月 29 日

安藤は、福島大学で行われた 2013 年日本地理学会秋季学術大会において、「古代における地名の表現と空間認識 ―六国史からの考察を中心に―」と題する発表を行った。

・ 9 月 30 日

小方と小島が項目執筆 (それぞれ「リモートセンシングの原理」184-185 頁, 「集落形態」394-395 頁) した『人文地理学事典』(人文地理学会編, 丸善出版) が発行された。

・ 9 月 30 日

安藤は、京都大学芝蘭会館で行われた学際研究着想コンテスト「一枚で伝えるイノベーション」(主催: 学際融合教育研究推進センター) の 2 次選考プレゼンテーションに、「宇宙人に伝えたい〜コンテキスト共有ゼロから創出〜」(代表: 常見俊直理学研究科講師) として企画したグループの一員として参加した。グループとして奨励賞 (賞金 10 万円) を授与された。

・ 9 月

金坂清則名誉教授が翻訳した『完訳日本奥地紀行』(全 4 巻) の出版によって、平凡社が第 49 回日本翻訳出版文化賞を受賞した。

・ 10 月

安藤は、「地理と古典を活かした京都の旅の創造と提案へ向けて」と題する授業研究が、平成 25 年度地 (知) の拠点整備事業 (KYOTO 未来創造拠点整備事業―社会変革期を担う人材育成) 地域志向教育研究経費 (京都学教育プログラム) を受けることになった (助成額 47 万円, 平成 25 年 11 月 1 日〜平成 26 年 3 月 31 日)。本成果として、平成 26 年度から全学共通科目「地理と古典を活かした京都の旅の創造, 提案 A / B」(拡大科目群) を提供することとなった (安藤担当)。

・ 10 月 12 日

2013 年度第 2 回巡検が、「鴨川を下る」と題して行われ、雲ヶ畑, 上賀茂神社, 琵琶湖疏水, 羽東師橋などを巡った (担当: 寺岡郁夫)。

・ 10 月 19 日

小島は大阪府立茨木高等学校の「学問発見講座」の講師をつとめ、「中国を共感的に理解するために」と題して授業を行った。

・ 11 月 1 日

修士課程の寺岡郁夫は、ウクライナのキエフ大学へ留学 (平成 25 年 11 月〜平成 26 年 6 月) のため、休学することとなった。

・ 11 月

『総合人間学部広報』(No.52, 人間・環境学研究科 総合人間学部 広報委員会) に安藤の「『出会ひの地理学』を通じた「共生」への道を意識して」(10 頁) が掲載された。

・ 11 月 9 日

人文地理学会大会の特別研究発表において上野莉紗が書記を務めた。

・ 11 月 17 日〜25 日

小方は、科学研究費助成事業「衛星画像を利用したユーラシアにおける都市遺跡・歴史的都市の立地とプランの類型化」(基盤研究 (C) : 代表者・小方) の一環として、ウズベキスタンへ赴き調査を行った。

・ 11 月 26 日

金坂清則名誉教授が、2013 年日英協会賞を受賞された。

・ 12 月 14〜15 日

小島は、国際ワークショップ「フィールド調査にもとづいて松原の地域構造を考える」(於: 14 日楽友会館, 15 日百周年時計台記念館) を主催した。ワークショップでは小島が「前郭灌区の水田開発」, 石田曜が「松原市におけるレジャー空間の特性―都市内の公園緑地を事例に」と題した報告を行った。あわせて中国科学院東北地理与農業生態研究所の張柏・劉偉傑両氏が研究室を訪問された。

2014 年

・1月25日

石川県四高記念文化交流館において行われた地方行財政の地理学研究会 2013 年度第 2 回研究会において次の発表が行われた。上野莉紗「地理学における行政地域・行政区画をめぐる研究の展望—地域に即して道州制を考えるために—」

・2月～3月

437 地図演習室の地図棚整理を、安藤助教を中心に、博士課程院生（上野莉紗・石田曜・長島雄毅）が参加して行った。

・2月15日

2013 年度第 3 回巡検が、「神戸における中国情趣」と題して行われ、孫文記念館、南京町、北野異人館などを巡った（担当：石田曜）。

・3月11～18日

小島は、中国南京で都市農村関係にかかわるフィールド調査を行った。

・3月23日

趙富蘭が京都大学修士（人間・環境学）の学位を授与された（論文要旨は本誌に掲載）。また、勝又阿暁、権藤拓樹が京都大学学士（総合人間学）を授与された。

・3月31日

安藤哲郎助教が退職。4月1日より滋賀大学教育学部に講師として着任。

・4月7日

平成 26 年度の大学院入学式が開催された。本年度は、修士課程に龐岩博（指導教員小方）、勝又阿暁・権藤拓樹・高倉ニルス・劉天野（指導教員小島）が入学した。

・5月23日

小島は、人文科学研究所「近現代中国における社会経済制度の再編」研究班において、「村という制度」と題して報告を行った。

・5月24日

2014 年度第 1 回巡検が、「京都の伝統と現在—主に近世との比較から」と題して行われ、御

土居（鷹峯付近）、西陣織会館、（有）渡部整経、花御所跡、堀野記念館、室町通などを巡った（担当：長島雄毅）。

・6月7日

小島は、日本現代中国学会 2014 年度関西西部会大会（於：龍谷大学ともいき荘）で、社会・教育分科会のコメンテーターをつとめた。

・6月22日

第 19 回京都大学地球環境フォーラムが時計台記念ホールで開催され、小方が「新旧の衛星画像で見るシルクロード地域の歴史・文化景観」という題目で講演した。

・8月2日

小島は、UNITY（神戸研究学園都市大学交流推進協議会）で開催された共同研究発表会において、「中国で考える」と題した講演を行った。

・8月9～25日

小島と石田曜は、科学研究費「中国東北における地域構造の変化に関する地理学的調査研究」（代表：小島、課題番号：24401035）によるフィールド調査に参加し、中国延吉市において、それぞれ農村調査と都市調査に従事した。

・9月21日

小島は、日本地理学会秋季学術大会において、シンポジウム「ポスト満洲としての中国東北—フィールド調査に基づく地域像再考—」を、小野寺淳横浜国立大学教授と共同で主催した。シンポジウムで小島は、「いま日本で中国東北を考えること—吉林省松原市の農村開発を例として」と題して趣旨説明を兼ねた報告を行った。

・10月25日～11月1日

小方は、科学研究費助成事業「衛星データを利用した中央アジア・西アジアにおける歴史的集落の立地と形態の研究」（基盤研究（C）：代表者・小方）の一環として、ヨルダンへ赴き調査を行った。

・11月9日

広島大学で開催された 2014 年人文地理学会大

会において、以下の発表が行われた。石田曜「中国の都市公園・広場にみるレジャー空間の特性—吉林省松原市を事例に一」、長島雄毅「近世中後期における三井越後屋京本店の奉公人出身地とその変化」。

・ 11 月 21 日～ 29 日

小方・小島は、科学研究費助成事業「前近代中国における交通路と関津の環境史学的研究」（基盤研究（B）：代表者・福原啓郎京都外国語大学教授）の一環として中国に赴き、函谷関や潼関の調査を行った。

地域と環境 No.13 2014. 12

編集・発行 「地 域 と 環 境」研 究 会
京都大学大学院人間・環境学研究科
文化・地域環境論講座 地域空間論分野
〒 606-8501 京都市左京区吉田二本松町
TEL.075-753-2894 FAX.075-753-7856

発 行 日 2014 年 12 月 26 日

印 刷 所 株式会社 田中プリント
TEL.075-343-0006 FAX.075-341-4476

